福岡大学医学部同窓会

同窓会会報

第９号

目　次

第9回福岡大学医学部同窓会報告
医学部同窓会10周年に向けて …… 医学部同窓会会長　1回生　山崎　節… 3
ゴルフと健康 …… 体育学部教授　1回生　清永　明… 4
第9回福岡大学医学部同窓会総会を終えて …… 10回生　武末　淳… 5
医学部同窓会役員名簿 …… 7
会計報告 …… 同窓会財務担当　3回生　小金丸史隆… 8
学年会報告〈旧友はいま!?〉 …… 各学年会担当幹事…10
人事異動報告 ……13
教授就任挨拶 …… 腎センター教授　内藤　説也…14
助教授就任挨拶 …… 眼科助教授　向野　利寛…15
会員寄稿
今後の同窓会の発展のために …… 7回生　井上　隆則…16
私の受けた卒後研修 …… 整形外科　3回生　大慈弥裕之…17
癌研での日々 …… 癌研病理部　7回生　秋山　太…18
学生欄　ごあいさつ …… 西医体委員長　M4　黒岩　大三…20
クラブ紹介　硬式庭球愛好会 …… 主将　M3　久部　高司…20
第42回西日本医科学生総合体育大会 ……21
第84回医師国家試験合格者と研修病院 ……22
会議報告 ……24
お知らせ ……24
事務局からのご連絡 …… 同窓会事務局…25
編集後記 …… 5回生　田中伸之介…25

表紙写真：飛翔── 鷺草 ──：志村秀彦(第一外科教授)

第９回福岡大学医学部同窓会総会報告

医学部同窓会10周年に向けて

会長　山崎　節

今年７月７日に行われました第９回同窓会総会におきまして役員会より会長に推薦を受け、会員の皆様に承認していただき第５期目の会長を務める事になりました。今後２年の任期を一生懸命務めさせていただきます。

５期目を迎えるにあたり、理事の増員と役員の大幅な交替を行いました。毎回改選の度に理事会の活性化や職務分担、あるいは新たな事業計画の作成などを掲げてまいりましたが、その成果は十分とは言えませんでした。特に今期は２年後に控えた10周年（医学部20周年）の準備期間にあたり、同窓会の基盤整備を行いながら、10周年にも対応して行かなければなりません。

総会で表明いたしました活動方針は以下の通りです。

①　理事会の強化

卒業11回生まで（従来は９回生）理事を出してもらう。12回生と13回生は理事ではないが、オブザーバーとして参加してもらう。

理事の役割分担を明確にし、業務がスムーズに行われるようにする。

１）総務：同窓会施設を含む長期展望にたった将来計画の作成。

２）財務：終身会費の納入率を上げる。安定収入を得るための、保険代理店などの事業を推進する。現有資産の効果的な運用を行う。

３）会報：年２回以上の発行を目指し、内容も新たな企画を考える。学校幹部へのインタビューや学生（西医体）へのページの解放など。

４）名簿：新たな名簿改訂への情報収集。より良い名簿のための内容検討。

５）事業（10周年記念事業）：10周年に向けて同窓会独自の記念事業を検討すると共に、学校側との共同事業にも関与する。

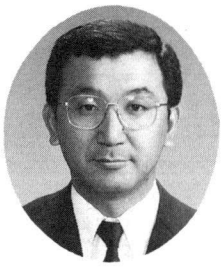
②　評議員の強化

従来理事会が満足に機能しない為、評議員を含めた「役員会」を中心に活動してきた。理事会は前記の通り役割分担をした上活動する予定であり、評議員は年１～３回の役員会で協力していただく、会則で評議員は各卒業年度の代表とされているが、医局や地方支部の代表も評議員として参加をお願いする方針で、増員をした。

③　支部支援

各地に散らばった卒業生も多くなり、宮崎、佐賀、北九州に続き熊本や筑豊地区にも会員の輪が広がろうとしているので、本部としてはこれを出来るだけ手助けして行きたい。

従来「その日暮らし」的に『総会』『会報』『名簿』に追われ同窓会の活動に対する根本的な認識の徹底や、将来に対する長期的ビジョンなどがありませんでした。事務局も出来、スタッフも次第にそろって来た現在、10周年を機会に多方向より十分に検討し、次の世代へも継続できる、そして現会員にも満足をしてもらえる同窓会を目指したいと思います。



福岡大学医学部同窓会講演

ゴルフと健康

福岡大学医学部第1回卒業生
福岡大学体育学部運動健康学教授　清永　明

はじめに

私がゴルフと出会ったのは、高校時代にリウマチ熱に罹患したためなのです。心筋炎を患った息子に対し、内科医である親父が勧めた運動療法がゴルフでした。

医学部入学後、ゴルフ練習場で同好の仲間と気ままに楽しく球遊びをしていたのですが、2年目には九州にも学生ゴルフ連盟を作ろうという呼びかけがあり、われわれは軽い気持ちで設立に参加しました。ところが、学生ゴルフの実態は、私の病後回復に相応しいキャディ付のゆっくり歩くゴルフとは違っていたのです。約10kgの負荷を背負いながらジョギングを強制されるゴルフ、つまりセルフバッグでゴルフ場を走り回されるというものでした。冗談じゃないと思いながら、一方では自分の心臓と相談しながら効率を高める方法を模索していました。このような状況で運良くというか厚かましくも3年連続で九州学生チャンピオンになってしまいました。その後の運命はこの時決定されたといっても過言ではないと思います。

医師となり福大第2内科に入局した後、大学院での研究テーマとして「高血圧の運動療法」を荒川教授より頂きました。今日に至るまで運動療法がライフワークになっています。

健康ゴルフとは……

そこで、これまで学んで来たゴルフと運動療法とを基に、ゴルフを通して出来る健康作りについて考えてみたいと思います。結論からいえば、ゴルフとは単なるゲームと考えた方がよさそうです。既存のゴルフのやり方では、それが練習場だろうとラウンドゴルフだろうと、健康作りの基になる身体活動能（持久力やスタミナ）を高めることにはなりにくいのです。

ゴルフスイングを解析してみますと、グリップは勿論、アドレスを慎重にすればするほど、等尺性運動のために結果的には拡張期血圧の異常な上昇をみることになります。またスイングそれ自体は1～2秒で終わる等張性運動であり、エアロビクス（有酸素運動のことで持久力を高める）には成り得ません。つまりスイング練習での健康作りは、既存のやり方では不可能なのです。その解決策として私が考えたのは、肩にクラブをのせて両手で支えながら、脊椎を中心にバックスイングでは右足に、ダウンスイングでは左足にと体重移動を考えながら休みなく回転し続ける方法です。その際心拍数が毎分120±10拍になるようにすることが必要です。福大の学生から得られた結果からは、毎分40～45回転で良いようです。それを週3～6回、1回当り最低30分行えば、理論上エアロビクスになるのです。これを総称して私は、エアロゴルフィング（またはゴルフビクス）と名付けております。

一方、ゴルフ場でのラウンドゴルフで効率良く健康作りをしようとすれば、エ

チケットを無視せざる得ません。ゴルフ場では歩行のみが唯一の健康作りにつながるのですが、300m飛ばしても、分速100m歩行ではたった３分間運動にしかなりません。たとえばトラブルショットばかりで多叩きしようと、短時間運動の繰返しにしかならずエアロビクスには程遠いものです。最低30分間、出来れば60分間持続する歩行運動が必要です。ですから自分のショットやパットは手短に済ませ、また他人のプレーにお構いなく、足の動きを止めず茶店くらいまでは歩き続けることが必要なのです。月１～２回程度で、しかも休み休みの４時間以上かかるラウンドゴルフよりは、毎日30分間出来るだけ速く歩く方がどれだけ健康作りに役立つことでしょう。ただ、金と時間があるゴルファーで週３回以上のラウンドゴルフが可能ならば、消費カロリー等から計算すると健康作りが出来ることになります。

表．健康ゴルフのための運動処方

処方	スイング練習(素振り)	ラウンドゴルフ
種類	エアロゴルフィング	歩行
強度	40～45回転／分	出来るだけ速く
頻度	３～６回／週	１回／週
時間	30分／回	茶店まで

以上のことを、健康ゴルフのための運動処方として表にまとめてみました。

たかがゴルフ

私はゴルフを通して、私自身の健康と種々のトラブルに対する処理能力、また友人殊に医師以外の after 5 の世界を語れる仲間も数多く得ました。失ったものはといえば、間違いなく信用でしょう。学生時代は学生の分際でとか、医師になってからも大学にいる研究者としてはどうか等など、さらにハンディキャップがシングルの医師には銀行は金を貸さないとか。

同窓生の諸先生の中にはゴルフ嫌いの方もおられるかと思います。ゴルフを愛するが故に、ゴルフを解析し、その結果がゴルファーに苦言となろうとも、是は是、非は非とし、その中から何とかして健康に結びつけられるデータはないものかと日々悪戦苦闘をしているキ印の医師もおりますので、たかがゴルフとして、ご寛容の程をお願いしたいと思います。

第９回福岡大学医学部同窓会総会を終えて

当番幹事　武　末　　淳（10回生）

今年も例年通り、７月の第１土曜日である７日に同窓会総会が開かれた。

それまでの５カ月ノ準備期間は、同窓会事務局の池田さんにおんぶにだっこといった状態だった。当番幹事らしいことは何もしないままに当日を迎えることとなり、無事総会が開けるのか不安な心持ちで会場の福岡国際ホールへと向かった。

しかし各学生幹事の方々の御努力と、

数年ぶりの晴天いに恵まれ、前年を上回る参加者を得ることができ、ほっと胸を撫で下ろした。

午後6時、定刻通りに総会が始まった。平成元年度決算・平成2年度予算・役員改選・新規活動方針と、予定された全ての動議が可決・承認され、総会は終了した。

引き続き記念講演が行われた。今年の講師は、本学体育学部助教授(現教授)の清永明先生(1回生)で、「ゴルフと健康」と題して30分間お話して頂いた。内容は先生が学生時代からプロ顔負けの腕前を誇ってきたゴルフと、医師として取り組んできた循環器疾患に対する運動処方とを組み合わせるとどうなるかというユニークなもので、スライドに提示されたデータは先生が教養過程の講義の中で学生を対象に実際に行ったものであるということだった。(しかし「ラウンド中は茶店まで歩き続けること」というのは何ともはや……)。

午後7時からは、会場を隣りに移して懇親会となった。名誉会員の先生方も多数御出席され、久しぶりで顔を合わせた会員との間に話が尽きない様子だった。今回はアトラクションして皮膚科の図師伸一郎先生(12回生)によるマジックショーが行われ、度々、会場から大きな拍手があった。

午後9時過ぎ、予定をかなり過ぎて懇親会はお開きとなり、七夕の夜空の下、2次会の学年会へと各自思い思いに分かれ、今年の同窓会総会は無事終了した。

来年は同窓会も10回目となる。会員数も千人を越えた。医学部20周年も再来年に控えている。そろそろ同窓会が全体として動く頃となった。今までのように少数の人だけが活動するのではなく、会員一人一人が同窓会に対して意見なり行動なりを起こす時期ではないだろうか。私自身も今回の役を終え、総会に参加したことを契機にもっと活発に同窓会について考えてみようと思った。

最後に、今回の準備にあたり御心労をかけた山崎会長をはじめ同窓会役員の皆さんと、事務局の池田さんにこの場を借りて詫びと礼を申し上げます。

《任期満了につき同窓会役員改選!!》

平成２年６月19日の役員会で選出されました同窓会役員は、同年７月７日の同窓会総会におきまして承認されましたので報告いたします。

尚、今回選出されました役員の任期は平成２年７月より平成４年６月までの２年間となっております。

平成２年度　役員名簿　平成２年７月

会長	1	山崎　節	山崎医院
副会長	2	吉田　隆	三信会原病院
〃	3	小金丸史隆	放射線科
理事	1	城戸　正喜	筑紫病院整形外科
〃	1	高木　忠博	脳神経外科クリニック高木
〃	2	江下　明彦	江下内科クリニック
〃	3	飯田　博幸	整形外科
〃	4	大塩　善幸	筑紫病院眼科
〃	5	田中伸之介	外科第一
〃	6	東原　秀行	放射線科
〃	7	井上　隆則	進藤病院
〃	8	馬渡　秀仁	産婦人科
〃	9	吉田　晋	脳神経外科
〃	10	武末　淳	国立福岡中央病院
〃	11	武末　佳子	眼科
評議員	2	井上　隆人	藤井病院
〃	2	今田　達也	心臓血管外科
〃	2	原　正文	整形外科
〃	3	竹下　盛重	病理第一
〃	4	東　陽一郎	筑紫病院小児科
〃	4	仁位　隆信	内科第二
〃	5	占部　嘉男	内科第二
〃	5	原田　迅明	麻酔科
〃	6	緒方　周	精神神経科
〃	6	野中　隆	眼科
評議員	7	柴田　郷子	皮膚科
〃	7	増田　雄一	病理第一
〃	7	伊東　博巳	樋口病院
〃	7	小川　健一	健康管理科
〃	8	植木　敏晴	福岡市医師会成人病センター
〃	8	松岡　弘文	泌尿器科
〃	9	城戸　和明	外科第二
〃	9	野元　淳子	内科第二
〃	9	平川　勝之	脳神経外科
〃	10	内田　俊毅	内科第一
〃	10	松前　知治	内科第二
〃	11	岡　芳彦	内科第一
〃	11	鬼塚美由樹	華林堂病院
〃	12	大山　哲寛	麻酔科
〃	12	中川　夏司	眼科
〃	12	中島　雄一	国立福岡中央病院
〃	13	間　聡子	小児科
〃	13	飯田　武史	内科第一
〃	13	大蔵美佐子	小児科
〃	13	長村　俊志	
〃	13	春野　政虎	生化学第一
監事	1	朔　啓二郎	内科第二
〃	1	田口　純一	三萩野病院

(48名)

平成元年度福岡大学医学部同窓会会計報告

平成元年度収入支出決算

昭和63年度より繰越額	5,549,821円
平成元年度総収入額	16,824,696円
同　総支出額	6,356,536円
差引残額	16,017,981円

収入の部

項目	金額	摘要
前年度より繰越	5,549,821	
会費収入	10,580,000	会費　¥35,000×128　¥30,000×9 ¥20,000×274　¥10,000×9　¥5,000×1 重複分返却　10人分　¥255,000 総会費　¥5,000×102＝510,000
手数料収入	1,920,576	契約手数料　62件　¥1,625,221 集金手数料　33件　¥　295,355
寄付金収入	1,000,000	
雑収入	3,324,120	広告料　87件　¥2,835,000 名簿売上代　6件　¥　110,000 受取利息　¥249,120　報奨金　¥130,000
合計	22,374,517	

支出の部

項目	金額	摘要
給与	1,540,000	給料　¥120,000×12　他
旅費	197,760	通勤旅費　¥192,000　他
事務用品費	82,004	
通信運搬費	716,722	名簿送料　¥260,304　会報送料　¥59,328 総会案内送料¥114,622　電話料　¥133,184
印刷業	2,453,221	名簿　¥2,072,875　会報　¥200,000
事業費	325,500	卒業記念品　115名
什器備品費	72,590	戸棚　¥36,050　電話機　¥20,600
公租公課	54,000	市県民税　¥50,000
会議費	746,289	総会費　¥704,519
雑費	168,450	労務謝礼　¥100,000　税理士　¥30,900 慶弔費　¥20,000
合計	6,356,536	

残金処分

残金総額	16,017,981円
事業資金積立	15,000,000円
次年度繰越	1,017,981円

財産目録

積立金(定期)	10,317,600円
定期預金	12,147,361円
普通預金	3,815,823円
普通預金(代理店)	54,797円
器具備品	274,362円
電話加入権	72,800円
合計	26,682,743円

福大医学シンポジュウム寄付金の状況

寄付金総額(182名)	2,220,000円
利息	5,743円
寄付額	2,225,743円

第１回福岡大学医学シンポジュウム風景

— ご寄附ありがとうございました —

＜旧友はいま!?＞

同窓会総会に引き続き卒業回期別に２次会が開催されました。あの人はいまどこで何をしているのでしょうか？どんな学年会だったのでしょうか？

『72（ナナニィ）の会』を結成

山崎　節

１回生は昨年同様、西中州の「グランドケルン」で学年会を行った。終身学年幹事の高木君は急用で病院に帰ったので、代わって田口純一君が学年会を取り仕切った。総会の時より更に数名増えて約30名の出席者となり、席が足りない程の盛況となった。女性軍も４名中３名出席で、すっかりスリムになった田口星君が目を引いた。

以前より「卒業１回生の会」ではなく「１回生として入学した仲間の会」にしたいとの考えがあり、今回甲斐君や天野君が参加してくれたのを機会に今後は「72（ナナニィ）の会」として開催することが参加者全員の同意を得て決定した。更に多くの「72」の友人たちが、気楽に参加してくれる事を期待したい。

総会以外にも、機会があれば年１～２回集まっていたが、既に大学を離れ就職や開業した者も多く、それぞれの話題に花が咲いた。

途中から６回生の諸君も一緒になりカラオケで盛り上がった後は、それぞれ中州へと流れて行った。

第２回卒業生学年会報告

江下明彦

同窓会総会の後に学年会が開かれるようになって今年で３回目ですが、Ｓ63年度27名、平成元年度25名、本年度30名と言う出席状況です。会場はいつものグランドケルンで、毎年１回生と同じ会場と言う事もあり、そのバイタリティ、団結力の強さに圧倒されます。

今年もカラオケのすごい合唱に我々も刺激され最後には１、２回生入り乱れての学年会となり、久し振りに楽しい一夜を過ごす事が出来ました。

さて１回目の学年会で私達は、同級生の集まりを毎年７月に行う事を決め、その会を「山笠会」と命名し、会長に井上忠雄学兄、副会長に吉田隆学兄と幹事若干名を選出しました。昨年は卒後10周年目で本来なら大々的に大会を行う予定でしたが、都合により実行出来ず幹事一同反省しております。近々、再企画してお知らせしますのでその折は、どうぞ多数の御出席をお願いいたします。

又、今後各地域の代表世話人を決定し、連絡を密にとり合い、名簿の整備、各会員の動向の把握、催物の企画などを実行して行きたいと思いますのでよろしく御協力下さいませ。

３回生学年会回顧記

小金丸　史　隆

今年の学年会は犬塚教授の他、18名の出席者で天神「魚菜」で開催されました。

早いもので、卒業して10年が経ち我々が各科で第一線の医師として従事する年代となりました。当日は、犬塚教授が学年担当となられたとき、懇親の意味で呼子へのバス旅行したときの記念アルバムをご披露してくれました。当時、若かりし我々仲間の顔をみて14年の月日の早さにただ驚くばかりでした。

毎年、出席者は、10数名ですが来年、10周年を記念して温泉旅行でもしようという案がまとまり、さっそく実行する予定です。

３回生の皆様、ひとつの思い出として多数の参会、宜しくお願いします。

第４回生学年会報告

仁位隆信

二次会は、昨年と同じブラックベリーで行った。当初は、二次会を開けるほどの人数が集まるのか不安であったが、兵庫県からかけつけてくれた長谷川先生を含め、11名が集まり、そのまま三次会へ、一部は四次会までなだれこみ、楽しいひと時を過ごした。

あの人は、いま、どこに!?
── ５回生学年会報告 ──

占部嘉男

第９回福岡大学医学部同窓会総会にひき続き、５回生学年会は、天神のニュートンサーカスにて開催されました。９名の参加がありここで皆様の近況を報告いたします。

まず、石井龍先生は泌尿器科の講師として学生教育、臨床にと活躍中です。大堂孝文先生は２内科入局後、現在は助手として筑紫病院に勤務されています。隈本正人先生は九大病理にて研究中です。久保達哉先生は芦屋中央病院に就職され、二世も誕生して、活躍中です。徳永剛先生は福岡日赤病院勤務中で、相変らず良きパパぶりを発揮されておられます。松田夫妻（奥さんは森奈津子さん）は飯塚病院出張中で、脳外科の救急医療に活躍中です。田中伸之介先生は１外科に入局し、現在は第１病理にて研究中です。小生は２内科研究生として細々と頑張っております。

来年はこの紙面で紹介できないくらい多数の皆様の御参加を期待しております。

第６回生学年会報告

東原秀行

中州「グランドケルン」にて開催される

第７回生学年会報告

増田雄一

1990年７月７日第９回同窓会総会に引き続き午後９時より天神“England”にて第７回生学年会が行なわれました。７回生は毎年この場所で学年会を開催いたしておりますが、今年は市原、伊東、井上、大蔵、柴田、大島、（旧姓安田）各氏と増田の出席で和気藹々とした雰囲気で旧交を温めました。藤井氏は出席予定でしたが、遠隔の地からの出席のためか学年会には間に合わず大変お気の毒でした。年々卒業生が増えるに従い、我々の医局での責任も増すのか、出席が開始当初よりあまり思わしくないのがつらいところです。学内で頑張っておられる方々も、学外に出られて活躍されている方々もそろそろ少しは余裕が出てくる（出来ないといけない!?）頃だと思いますので，是非来年はもっと多くの方にお集まり頂きたいと思っています。卒業10周年には何か記念行事も計画したいと思っておりますので、何かプランが有りましたらご連絡下さい。当分は毎年同じ場所（上記England、天神西鉄グランドホテルより南２つめの通り入る）で開催する予定ですので、ご都合の宜しい方はとび入りでも大歓迎です（ただし会費はきっちり頂きます）ので、宜しくお願いします。

第８回生学年会報告

馬渡秀仁

８回生の学年会は中村秀樹、真武、植木、戸原恵二、豊島秀夫、中庭、藤光、馬渡の７名の少数精鋭？で、長浜公園近くの『日本浪慢座』で行われました。円卓を囲み、旨い酒をやりながら、中華料理に舌鼓を打ちした。

なにせ車座、各科専門分野の解説から、本人や同期生の近況までかなり微に入り細に入ったものとなりました。（参加できなかった方、惜しかった！）。途中から既婚者の独身者に対する厳しい余裕の攻勢が始まり、戸原君、馬渡の独身貴族生活レポートでの反撃から中庭君鋭い分析？（失礼！）へと続き、豊島君の独身生活者文化経済論が登場するに及んで宴たけなわとなりました。学年会終了後もそのままスナックへと流れ、ほぼ夜半まで盛り上がり続けました（その後も翌日まで頑張った人もいたようで）。そして、来年の学年会での再会を約束の後、解散しました。

第９回生学年会を振り返って

野元淳子

今年も同窓会総会に続いて学年会に出席したが、卒業して５年目にもなると福大病院に席を置いている人でも院外出張であったり、結婚して家庭に入った人ありで仲々集まれず今年も少

人数での会でした。しかし、学生時代の共通の想い出話に花が咲いたり、また、科によって全く異なる臨床の実態を耳にしたり、あるいは新婚さんののろけ話を聞いて、更には○○がいつ結婚したとかするとか・・・あっという間に時が過ぎ去っていきました。お店のマスターのお勧めの料理やワインでお腹を満たし、友人との語らいに心を満たされた気分でした。また、来年も学年会を開いた時に楽しい話ができるように充実した日々を送りたいと思う今日この頃です。最後になりましたが、忙しい中、県外より出席して下さった方々に感謝いたします。

松前　知治・武末　　淳

第10回生学年会報告

天神「Ｈアッシュ」にて開催される。

第11回生学年会

── 織姫・彦星１年ぶりの再会 ── の記

鬼　塚　美由樹

卒業後３年目、研修医を終え皆各々の道を歩き始めた年だった。所は警固のＺＡＣと言うちょっと洒落たピザ屋。

集まった面々は、荒木、今村、岡、國本、高嶋、田代、別当、松尾、安永、山田(隆)、新垣、小野(民)、小野(美)、鬼塚、武末、平川(周田)、福田の計17名。doctor に成り立ての者あり、大学院生あり、新妻ありと、立つ位置は違っても顔を会わせればたちまちむかしの学生気分。遠くは大阪、沖縄からこの同窓会のためにはるばる出てきてくれた人もいた。幹事冥利に尽きる。何はともあれ、昔話に、今の苦労話失敗談に時の経つのを忘れさせたひとときだった。

今これを読んでいるあ・な・た。また来年もするから、そのときは必ず出ていらっしゃい！七夕気分で楽しい真夏の夜の夢が見れますよ。

第12回生学生会報告

大山　哲寛・笠　健児朗

舞鶴「どん底」にて開催される。

第13回生学年会報告

春　野　政　虎

平成２年７月７日(土)午後９時から、同窓会総会後、親不孝通り「どん底」にて、参加者約45名で、楽しく和やかに学年会がおこなわれた。皆忙しいから、福大病院中心に10名ぐらい集まるやろかと思っていたら、鹿児島、熊本、久留米、九大から複数の参加があり、福大からも大勢来てくれたことに、幹事一同感謝するとともに、席・料理に不都合があったことをお詫び申し上げる。尚、当日の宴会代の残金は９千円で、国試打上げコンパ残金８千円合計１万７千円が、春野の手元にあることを報告する。

来年も七月前後に、全体の同窓会総会後に学年会を計画しているので、是非参加を御願いする。

末尾ながら、それぞれの状況で、日々一生懸命過されている同窓生の御自愛を祈る。

各学年会で、出席者数にかなり差があった様ですが、それぞれに、懐かしい時を過ごしたようです。是非、来年も多数御出席下さい。

担当幹事の皆さん、お疲れさまでした。

教員人事（助教授以上・本学卒は講師以上）

昇任

内藤説也（内科第二助教授）	病院教授昇任	’90.10.1
岩崎敬雄（整形外科講師）	病院助教授昇任	〃
大塩善幸（眼科助手・４回生）	講師昇任	’90. 4.1
大府正治（小児科助手・２回生）	〃	〃
辻　祐治（泌尿器科助手・３回生）	〃	〃
仁位隆信（内科第二助手・４回生）	〃	〃
松永　彰（内科第二助手・１回生）	〃	〃
二見喜太郎（筑紫外科助手・１回生）	〃	〃
竹下盛重（病理部助手・３回生）	〃	’90.10.1

異動

有吉朝美（泌尿器科教授）	筑紫病院泌尿器科へ	’90.10.1
調　重昭（耳鼻咽喉科教授）	〃　耳鼻咽喉科へ	〃
向野利寛（眼科助教授）	〃　眼科へ	〃

内藤　説也教授の略歴　昭和10年４月８日生　55才

昭.35. 3	九州大学医学部卒業
〃.36. 7	九州大学医学部副手（第一内科）
〃.37.11	東京医科歯科大学助手（遺伝病研究施設）
〃.39. 9	九州大学医学部副手（第一内科）
〃.40. 4	同　助手（心臓血管研究施設）
〃.44. 7	ロスアンゼルス．カリフォルニヤ大学医学部留学
〃.46. 5	九州大学医学部附属病院助手（循環器内科）
〃.46. 7	同　併任講師
〃.48. 8	福岡大学医学部助教授（内科第二）
〃.63. 4	福岡大学病院腎センター部長
平. 2.10	福岡大学病院教授（腎センター）

同窓生から

教授第１号誕生

清永　明（体育学部助教授・医学部１回生）体育学部教授昇任　’90.10.1

教授就任挨拶

福岡大学病院腎センター教授
内藤説也

この度医学部教授会で選任され、平成2年10月1日付けで福岡大学病院教授兼腎センター部長に就任したものですが、福岡大学医学部同窓会の諸先生に自己紹介と腎センターの過去、現在、未来について簡単に述べさせていただきます。

私は長崎県佐世保北高校から九州大学医学部に入り昭和35年に卒業しました。東京の中央鉄道病院で一年間インターンとしての研修を終え、九大第一内科に入局、4年間内科の一般臨床研修と学位のための研究を行い、その後九大循環器内科に助手として移り、8年間在籍後、九大循環器科助教授であられた荒川規矩男教授に従って昭和48年4月に福岡大学に移って参りました。その間約2年間程UCLAのpaul Terasaki教授のところへ留学しHLAを勉強してきました。福大に来てからは臨床の方はHLAとの関連もあり荒川教授から、腎臓の方を専門にやれと言うことで専ら臨床腎臓病を専攻致しました。研究の方はHLAタイピング研究室を造り、この方面に力を入れています。

福大病院腎センターは病院創立と同時に発足しましたが、実際に仕事を始めたのは昭和49年12月18日からです。始めは大学病院なので急性腎不全に対応できればよいとの考えの様でしたが、透析を実際にやっていないと、いきなりは急性腎不全の治療もできないということで末期慢性腎不全患者の慢性維持血液透析への導入で開始しました。その後現在まで300人を越える患者を慢性維持血液透析に導入しました。その後は導入のみでなく他施設で透析を受けている患者がいろいろな疾患で福大病院各科での専門的診療のため入院してくる患者の透析も多くなっています。最も多いのが眼科で糖尿病性網膜症の硝子体切除術、白内障手術などです。その他、整形外科（透析アミロイド症による手根幹症候群や大腿骨頭病変の手術など）、外科（胃癌、大腸癌、胆石症など）心臓外科（大動脈瘤、冠動脈副行路形成術など）泌尿器科（腎癌、副甲状線切除術、難治性尿路感染症の根治術など）、放射線科（原発性肝癌TAE）、内科第二循環器（冠動脈硬化症の経皮的経管冠動脈形成術：PTCA）、耳鼻科などによる治療のための入院患者を透析しています。なお、末期腎不全患者の腎移植は当院泌尿器科で行われていますが、対象者のHLAタイピングとこれに基づくDonorの選択、Recipientの選択と術前透析、免疫抑制剤の選択などは泌尿器科との密接な連絡のもとに腎センターが担当しています。現在まで生体腎移植9例、死体腎移植1例が行われていますが、今後その例数をどんどん増加させていきたいと考えています。

急性腎不全は院内の全科に発生しますが、この一時的透析も腎センターか、当該科に出張してやっています。最近では装置のいらない持続的動（静）静脈間血液濾過法（CAVH・CVVH）が特に心臓の状態の悪い患者で広く行われるようになり、腎センターかまたは救急部の医師が担当して施行しています。

腎不全の治療以外で最近腎センターで広く施行されている治療法は膜を利用し

た血漿交換法を含む血液浄化法です。全身性エリテマトーデス、悪性慢性関節リウマチ、マクログロブリン血症、重症筋無力症、ギラン・バレー症候群、家族性高コレステロール血症などの治療をそれぞれの疾患の専門の先生方のご指示とご指導のもとに腎センターで施行しています。

本学出身の腎グループの先生は博多区比恵で開業をしている古原雅樹先生（昭和54年卒）、中央区平尾で開業の池尻健太郎先生（昭和54年卒）、佐賀医科大学内科腎部門の教官として活躍している長野善郎先生（昭和55年卒）、御夫君と一緒に開業して透析もやっている高山邦子先生（昭和56年卒）、鳥取大学医学部第一内科助手として腎臓病主任をやっている小坂博基先生（昭和58年卒）、佐賀県武雄で透析を主体とする内科クリニックを開業している高原和秀先生（昭和58年卒）などがおられ、現役としては、小河原悟先生（昭和59年卒）、道永功先生（昭和59年卒）、安部（旧姓倉光）かすみ先生（昭和60年卒）、吉田和彦先生（昭和61年卒）、松前知治先生（昭和62年卒）、木本伸子先生（昭和63年卒）、平塚俊樹先生（昭和63年卒）などがいます。

腎センターは近々６床から10床へ拡張予定で、更に近い将来は20床へと増床の予定です。ＣＡＰＤ（Continuous Ambulatory Peritonial Dialysis；連続携行外来腹膜透析、末期慢性腎不全の維持療法の一つ）や腎生検も一カ所に集めていくつもりです。更に先に述べた血液浄化法も質量共に拡大していくことになっていくと思います。しかし、腎センターが発展していくかどうかは、私共の努力は勿論ですが、福岡大学医学部同窓会の先生方の暖かい御支援と御鞭撻に掛かっていると言っても過言ではないと存じます。更に言わして頂けるならば、本学を新しく卒業される方で内科的腎疾患に興味のある向きは多数腎センターへ入局されることを希望して筆を措きます。

福岡大学医学部同窓会の今後の益々の御発展を祈りつつ。

助教授就任挨拶

眼科助教授　向野利寛

昭和49年鳥取大学を卒業。九州大眼科学教室に入局。以後、各地を転戦して本年４月から眼科にお世話になっています。住まいは北九州（産業医科大学のそば）であり、通勤時間は長いのですが、高校以来の汽車、バス通学を楽しんでいます。ただ、博多駅から七隈までのバスはスリル一杯で、道路事情の悪さとバス運転手の腕の冴えを毎日味わっています。専門は眼網膜の病理のはずですが、性格的に人の出来る事は何でも手をだしてみたく、臨床では眼球だけでなく、目の周囲の手術もします。しかし、今後は当教室の看板である網膜硝子体手術を少しでも上達したいと思っています。

学生諸君とは時々臨床実習で会いますが、素直な性格の人が多いようです。ただ、少し積極性に欠けると思います。教官の言った事に疑いを持ち、自分で勉強してみる位の気構えがあればと感じています。

会員寄稿

今後の同窓会の発展のために

第7回卒理事　井上隆則

福岡大学医学部は創立20周年を、医学部同窓会も設立10周年をまもなくむかえようとしている。今は卒業生も1,400名をこえているようだ。数年前の総会を担当した時のことであるが、1,100名ほどの卒業生に対して努力して出席を促した上で、60数名しか出席がなかった。この数字だけで全ての判断はできないが、かなりさびしい数字である。当時の同窓会に金がない、関心がない、人が集まらないの3本柱が大きな課題であった。もちろんそれは何もその時にもちあがった課題ではなく、設立した時からの長期にわたる課題であり、そしてそれは今、現在に至り、変りないものだと思う。私自身数年にわたり、役員会、総会と出席してきているわけだから同窓会員の1人として、その責任の一端をかついでいるわけである。この原因は色々なことがあるようだが、その中の根本的なものは、会員である卒業生が、福岡大学医学部同窓会が存在する目的を知らないことにあると思う。そしてそれを十分理解する機会も殆んどないのである。恐らく多くの人が、旧友に会い旧交を暖めるためなら、何も同窓会に出席せずとも気の合う仲間だけで事たりると考えるであろう。会員相互の親睦をはかることも同窓会の存在する目的のひとつであるが、それだけではないことを知る必要がある。医学部同窓会は、福大医学部の発展つまり私達の母校の発展に大きく寄与してゆく存在になることが重要である。いずれ将来は福大の卒業生の中から教授が生まれ、そして医学部の発展をも担うことになる時が来るわけである。そういう時代のためにも、同窓会は、会員の意識を統合して、医学部のために発揮できる財力と人力を養なってゆく必要がある。そして医学部と同窓会のより良い協力的な関係は、必ず私達同窓会員個人にとっても良い影響を与えてくれるだろう。それでは今、何を成すべきかである。

同窓会の存在目的を知らしめ、さらにその組織を統合をはかってゆくためには、第1は現在の同窓会活動の充実をはかり、1人でも多くの会員の関与を促してゆくことである。これは今までにも多くの努力を払ってきているわけであり、今後も年間計画として続けられてゆくものである。そして第2に必要なのは、（むしろこれを早く手がけるべきだったと考えるのだが）医学部学生に対する介入である。私達は福大医学部に入学した時点で、将来同じ職につくことを目指した特殊な集団である。その時から将来医師になりそしてこの同窓会へ入会することは、大体決まっているのである。卒業して試験に合格してから、同窓会への意識を高めようとしても遅すぎるのである。実際に卒業した者を全員集めることなど不可能であり、直接話をすることもごく一部の者にしかできないわけである。したがって、全員がそろう機会がある学生のうちから同窓会の存在や目的を知らしめて、意識を植えてゆくことが重要であると考えられる。入学した時から、最低6年間の間に同窓会の活動を知り、また学生のうちから何らかの恩恵を同窓会から受けて、関心を高めてゆくことが大切なのである。そのためには学生も同窓会の会員の準備員として認め、そのかわりに同窓会から学生に対して、学生生活がより充実してゆくように援助してゆくのである。すでに国試対策や西医体活動への援助、また将来は同窓会から経済的に困っている学生への奨学金制度などの案が考えられている。今後、同窓会と学生、そして医学部の間で何度も話しあいが必要となる。今からこういう方向で、少しずつでも会員の同窓会への関心を深めてゆく努力が、10年後あたりに実を結ぶことを願うばかりである。私たちが福岡大学医学部で学び、卒業し、医師になったことは永久にかわらぬ真実であり、それをほこりとしてゆけるような福大医学部と同窓会の発展を目指して、これからもとりくんでゆきたいと思います。

私の受けた卒後研修

福岡大学医学部整形外科
大慈弥　裕　之（昭和55年卒業、第３回卒）

大学５年生の夏休み、私は東京警察病院へ見学に行った。院長は大森清一先生であり、当時、日本の形成外科の大御所的存在であった。そこで初めて形成外科なるものを知り、大いに感動した。一人前の形成外科医になることを夢見て昭和55年、卒業と同時に上京し、防衛医大に入局した。翌年、北里大学に移りそこで正式なトレーニングを受けた。その間、近畿大学にも一時出向した。奇しくも、福大とほぼ同じ時期に設立された新設医大３校で卒後教育を受けたことになる。そして同じ新設校でもその卒後教育のシステムの違いに驚かされた。特に北里大学は他の２校に比べ際立った卒後教育システムを持っていたので、紹介したい。

北里大学病院では卒後教育にレジデント制を敷いている。私が属した形成外科の塩谷信幸教授は大学卒業後直ちに渡米し、身をもって米国のレジデントシステムの下に卒後教育を受けてこられたので、他の科以上に忠実にこのシステムを実行しようとなさっていた。レジデントシステムと言っても具体的には理解しにくいと思うが、一言で言うと、限られた一定の期間に臨床医として必要な技術と知識を養成することを目標とした教育システムである。北里大学では、医局員は指導する側のスタッフと教育を受ける側のレジデントの二つに正確に分けられている。スタッフは講師以上に相当する。レジデントの期間は研修医を含めて５年間であり、この間の１年か２年は他の科をローテーションする。どの科に行くかは比較的自由に希望でき、私の場合麻酔科を３か月、一般外科を６か月、救命救急センターを３か月間、北里大学病院内で研修させてもらった。また、各年限ごとにマスターすべき手技や疾患のカリキュラムが組まれていて、それに相当する学年のレジデントが優先的に指導医の下で治療方針を決定し、手術の執刀をする。例えば、形成外科の場合、１年目は基本的縫合法や植皮術、２年目は一般的な皮弁形成術、３年目が筋皮弁や口唇形成術などである。また、上の学年のレジデントは下を指導しなければならない。手術は月曜から金曜まで毎日あり、入院患者は一般病棟、小児病棟、救命救急センターを含めると70床以上になるので、朝７時から夜中まで馬車馬のように働いた。

レジデント制では、最終学年にチーフレジデントになることによって全ての課程が終了する。しかし、全員がチーフレジデントになれるわけではない。チーフレジデントはスタッフによって同期のレジデントの中から１人、あるいは２人が選ばれ、他のレジデントは大学病院には残れない。評価の基準は日頃の診療態度や積極性、指導力、カンファランスでの発言などであり、スタッフ会議で選出される。チーフレジデントになることは名誉なことではあるが極めて忙しい１年間を堪えなければならない。チーフレジデントは事実上臨床に関する最高責任者であり、病棟、外来、手術室で起こる全ての事項を把握し、理解し、解決することを要求される。具体的には入院や退院患者の決定、手術組み、執刀医や指導医の選択、レジデントの教育、カンファランスの座長、教授回診の時のナビゲーター、夜間救急患者の治療方針決定などが主な仕事である。週に２度は徹夜を余儀なくされ、歴代のチーフはその１年に禿るか胃潰瘍になるか、あるいは嫁に逃げられた。３つとも経験した可哀想な男もいたが、幸い、私は多少髪が薄くなった程度で済んだ。しかし、その嵐のような１年

が過ぎると症例数も格段に増え、周囲からもあるレベルに達した臨床医として認められ、自信もついた。

北里大学でのレジデントシステムを経験して、外科医として多くの症例を経験できただけでなく、患者を前にしたときの判断力、企画力、応用力をも培うことができた点で、私は大いにためになったと思う。特に印象的だったのは、大学や病院全体がこのシステムを支えていることである。これは1つの教室や医局だけがいくら頑張っても不可能だと感じた。システムがうまく行くためには、症例数が豊富にあり優れた指導者がたくさんいて、しかも最も大切なことはレジデントが生活の心配をすることなく、5年間トレーニングに専念できなければならないことである。北里大学病院でのレジデントの期間中、給料は最初が月に手取りで15万円程度、3年目からは25万円ほどになりボーナスも支給された。病院に接してレジデントの宿舎が備わっており、食堂も朝7時から夜11時まで開いていて、必要最低限の生活は保証されていた。おかげで研修に没頭することができた。この待遇は北里大学の同窓会からの働き掛けによるものだと聞いた。

しかしながら、米国の卒後教育システムをそのまま日本の医療現場に当て嵌めると色々と矛盾も生じるようである。研究や関連病院との兼ね合い、レジデント終了後の就職、チーフレジデントになれなかった人をどうするか、などである。北里大学ではスタッフの中に基礎系の指導者（Ph.D.）を入れ、研究部門を充実させるなど柔軟に対応しているが、科によっては伝統的な医局制度とレジデントシステムを折衷した形を取るなど、まだ模索が続いている状態である。ただ、他の施設に比べて違ったのは卒業生を含めて全体が卒後教育に関し問題意識が高かったということである。北里大学の同窓会もかなり熱心に議論していたようである。

我々も卒業して10年以上経つようになり、これまで自分のことだけで精一杯だったのが、このごろやっと周囲を見渡す余裕ができてきたように思う。後輩のためにも同窓生が色々な問題に対して討論の場を設け、前向きな議論を行なっていってもいいのではないだろうか。

癌研での日々

㈶癌研究会癌研究所病理部
秋山　太（昭和59年卒、第7回生）

私は、昭和59年卒業の第7回生の一人です。大学卒業後は福岡大学外科学第一教室に入局し、志村教授のもとで外科学を2年間研修しました。その後、大学院で病態構造系を専攻し、菊池教授のもとで病理学の勉強を始めました。そして、放射線科の岡崎先生のお勧めにより乳癌の勉強のために東京の癌研に国内留学したのは大学院に入学した年の夏ですから、東京での生活も5年目となります。この間に結婚し長女が誕生しました。

さて、癌研と呼称されているのは正式には財団法人癌研究会であり、癌研究所と附属病院より構成され、東京は豊島区池袋のすぐ近くの大塚に在ります。癌研究会の創設は明治41年（1908年）で、癌の研究においては80年以上の歴史をもつわが国で最も伝統のある民間がん専門研究団体です。

わが国における最近の乳癌の増加は著しく社会の注目を集めるところとなっています。癌研では以前より乳癌の手術症

例数が多く、ここ２～３年では年間500～600症例を数え、1946年以降の症例の蓄積は6,000例を越えています。年間乳癌手術数はわが国では第一位で、世界でも第三位を誇っています。わが国の乳癌手術の縮小化の先駆けとして1974年より胸筋を保存する非定型乳房切除術を本格的に採用し、その治療成績が従来の定型乳房切除術に劣らないことを実証してきました。さらに最近では乳房温存療法に着手し、症例の蓄積を行っています。乳房温存療法とは癌とその周辺の乳腺を切除し、乳頭を含む乳房を温存する方法で、病理学的に切除材料を詳細に検索しその後の治療方針を決めています。したがって乳房温存療法における病理の役割りは重く、癌の組織診断の枠を越え治療の一部を担っていると言えます。

このように恵まれた環境の癌研での最初の１年間は、附属病院外科で乳癌を中心に臨床診断学と手術を主体とした治療学の研修を行いました。そして現在は癌研究所病理部で嘱託研究員として乳癌の病理診断学の研讃と臨床病理学の研究に励みながら、routine work や週１回の病理症例検討会、週２回の臨床・病理乳腺勉強会、週３回の早朝外科カンファランスなどで多忙な毎日を送っています。

現在の私のテーマは病理組織学からみた乳癌の自然史の解明で、２つの方面からアプローチしています。一つは乳癌の治療成績を左右する予後因子の検索で、もう一つは乳腺内での乳癌の広がり方の解析です。これらは非常に難しいテーマではありますが、乳癌の治療に直結する問題なのでやりがいのある仕事だと思っています。

癌研には全国各地の大学病院や一般病院より多くの人々が勉強のために集っており、これらの人々との交流で東京に居ながらにして各地のことが耳に入ります。また学会などで各地を訪れ、癌研ＯＢの方々と話をするのも楽しみの一つとなっています。いろいろな人がいて情報が早くて多いのが東京の良いところではありますが、その半面物価が高く住宅事情と通勤事情が悪いのには閉口させられます。食べ物の味も博多にはかないません。雑誌などで母校の名を見ると必ず本文に目を通しています。私のように母校を離れて活動していると、同窓会の存在が非常に頼もしいものに思われます。同窓会の活動にはなかなか参加することができず申し訳なく思っておりますが、同窓会がこれからますます発展し充実していくことを確信しております。

癌研究会附属病院玄関風景

＝学生欄＝

ごあいさつ

西医体委員長　黒岩大三（M4）

今号より、学生のためのページをもうけて下さり、まことにありがとうございます。これからも学生の状況や話題を先輩がたへおおくりしようと思っています。どうぞよろしくおねがいいたします。

さて、最近の一番の出来事は、11月1～4日に七隈キャンパスにおいて行われました、第10回医学部文化発表週間です。今回は、第10回ということで、赤松晴樹委員長のもと、いままでにないもり上がりをみせました。ステージ企画として、アームレスリング大会をとり行い、多数の参加者でにぎわった大会となりました。他にも、七号館におきましては、健康相談、救急蘇生、心理テスト、コンピューター占い、健康とダイエットといった、日頃の学習の成果を発表いたしました。そして4日最終日には、第10回目の記念行事として、作家の永井明氏をまねき、講演会をとり行いました。これに関しましては、医学部同窓会様より、43万円もの多大な援助金をいただきまして、我々一同深く感謝しております。

これからも、毎年毎年充実した企画をつづけていこうと思っております。皆様のあたたかいご支援、ご指導をいただけたらと願っております。

さて、話は前後しますが、第42回西日本医科学生総合体育大会の結果を別表に報告しておきます。今回は高知医大を主幹に、四国各県で試合がおこなわれました。現在の学生の問題点である無気力・無感動からでしょうか、クラブに所属する学生の数が年々減少しております。学校別の順位も年々下がっております。幹部研修会でも、いろんな案をだしあってクラブの活性化をはかっておりますが、なかなかおもうようにいきません。もっともっと活気あふれた大学にしようと我々もがんばっているところです。これからの学生の発展をあたたかくみまもって下さい。

クラブ紹介

硬式庭球愛好会

主将　久部高司（M3）

現在、我がクラブは、男子26人、女子14人の計40人で成り立っています。

部長である高岸先生をはじめとして、監督の緒方先生の御指導のもと、午後五時にテニスコートに集合し、青空の下で練習を開始します。

この秋の練習では、月曜日が男子、火曜日が女子、水・金曜日が自由練習、木・土曜日が合同練習そして火木土曜日に朝練ということで、レギュラーの実力の強化はもちろんのこと、一、二年生が23人と、部員の半数を占め、有望な部員も沢山いますので、下の学年の育成ならびに基礎的な練習を主として行なっております。

さて、先だっての、九州・山口医科学生体育大会では、喜多村前主将のもと、全員が一丸となって、男子三位という久々の上位入賞を果たすことができました。

これまでは、自分自身、負けることの

くやしさは何度も味わってきましたが、勝つことの喜びを味わうことができ、どんなに勝つことがすばらしいことなのか、みんなにも味わってほしいものです。

また、今回、六年生が抜けることにより、かなり選手の層が若くなりますが上位の選手の実力が拍伸しており、互いに競争しながらどんどん強くなってくれると信じています。

そして、一人一人が目標をかかげて、現状に甘んじることなく、進歩をこころがけ、一段高い所を目指してもらいたいと思っています。

来春の九州・山口医科学生体育大会では、男子・女子ともに三位以上の入賞を目指して練習を積んでいこうと思っています。

最後に、この度、高岸先生の退職を契機に愛好会誌を創刊しました。「あすなろ」と高岸先生より命名して頂きました。クラブと共に育てていきたいと思います。

第42回西日本医科学生総合体育大会

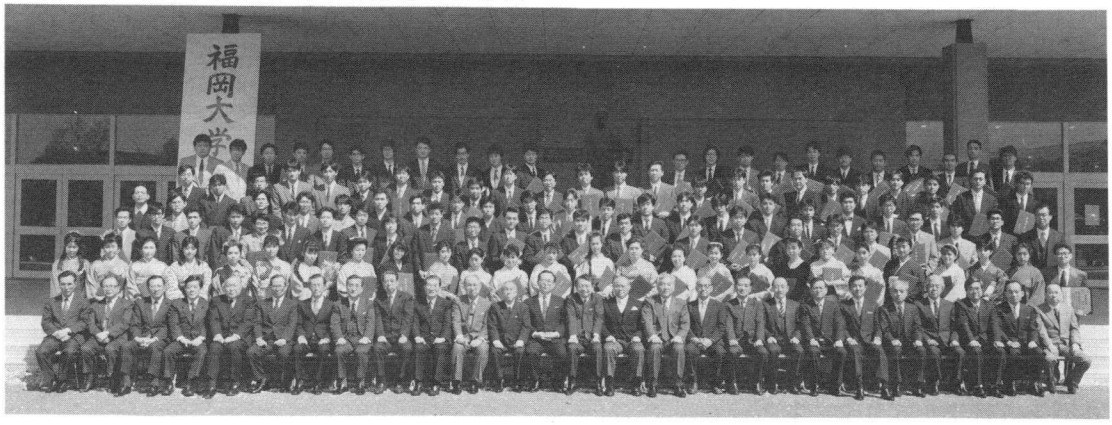
愛好会名	結果
バレーボール	決勝トーナメント進出　１回戦敗退
バスケットボール	（男子）予選敗退
	（女子）決勝戦進出　１回戦敗退
空手	決勝リーグ進出　ベスト16位
ボート	36クルー中　ベスト５位
ゴルフ	団体戦　18位（25校中）
	個人戦　網岡　徹　18位（124人中）
	山本　尚幸　57位
水泳	（女子）200mリレー・400mリレー３位
	総合７位
卓球	（男・女）予選敗退
バトミントン	（男・女）予選敗退
剣道	（男・女）予選敗退
弓道	（男・女）予選敗退
柔道	予選敗退
準硬式野球	３回戦敗退
ラグビー	１回戦敗退
サッカー	２回戦敗退
硬式庭球	（男子）２回戦敗退　（女子）３回戦敗退
軟式庭球	（男・女）予選敗退
アーチェリー	シングル　満尾　稚彦　全医体優勝
	コンパウンド　宇野　博之　全医体優勝

第84回 医師国家試験合格者と研修病院

平成2年4月7日・8日の両日行われた第84回医師国家試験に、本学から148人が受験し111人が合格した。合格率 75.0%（新卒80.5%、既卒57.1%）。ちなみに平均合格率は87.3%（私立76.1%）である。

間　聡子（福岡大小児科）
秋吉信男（福岡大内科第一）
天ケ瀬寛信（九州大産婦人科）
新井鐘一（福岡大内科第一）
案浦清高（福岡大内科第一）
飯田武史（福岡大内科第一）
池田信博（佐賀医大総合診療部）
石田清和（福岡大内科第一）
石村昌彦（鳥取大内科第一）
井上　徹（福岡大外科第一）
井上雅文（福岡大精神神経科）
今田岳男（広島大整形外科）
岩田　郁（福岡大内科第一）
浦田正彦（九州大整形外科）
江口　明（福岡大麻酔科）
大蔵美佐子（福岡大小児科）
岡　幸三郎（福岡大皮膚科）
岡本　育（福岡大麻酔科）
沖　浩一郎（宮崎医大小児科）
小田洋英（福岡大眼科）
嘉悦明彦（福岡大筑紫外科）
香取　清（福岡大麻酔科）
亀井智貴（名古屋第二赤十字病院）
川崎千香（福岡大内科第一）
神崎祐一（熊本大耳鼻咽喉科）
北原博之（長崎大整形外科）
木村史郎（福岡大放射線科）
木脇祐俊（鹿児島大第三内科）
櫛下町美和子（鹿児島大神経科精神科）
楠本　隆（長崎大小児科）
久原智子（久留米大皮膚科）
久米　徹（産業医大第二内科）
栗田輝久（福岡大精神神経科）
黒木嘉典（福岡大放射線科）
古賀研志（久留米大第二内科）
古賀嵩正（福岡大筑紫整形外科）
小玉正太（福岡大外科第一）
斎藤昌彦（宇治徳洲会病院）
斉藤　稔（鹿児島大第三内科）
堺　孝明（福岡大内科第二）
坂本宏一郎（未研修）
篠山理香（山口大第二内科）
島田　豊（福岡大小児科）
新牧大彦（鹿児島大放射線科）
薛　克良（福岡大内科第一）
仙波垂水（福岡大外科第一）
高尾聖二（福岡大脳神経外科）
高橋　真（東北大産婦人科）
田川雅浩（福岡大精神神経科）
竹島瑞子（福岡大内科第一）
竹山泰守（福岡大筑紫内科）
田代光太郎（福岡大外科第二）
田代博之（福岡大整形外科）
立川　裕（福岡大心臓血管外科）
田辺尚子（九州大第二内科）
種子田洋史（福岡大泌尿器科）
田原久史（福岡大内科第二）
土屋芳弘（福岡大内科第二）
徳丸久子（久留米大耳鼻咽喉科）
中川夏司（福岡大眼科）

中島　洋（久留米大産婦人科）
永野淳子（福岡大麻酔科）
長野康人（九州大生体防御医研内科）
長野祐一（鹿児島大整形外科）
長濱隆司（鹿児島大第二内科）
永光信一郎（久留米大小児科）
鍋島茂樹（九州大総合診療部）
野元康行（福岡大筑紫脳神経外科）
長谷川修三（福岡大筑紫外科）
林　亜紀（福岡大眼科）
原田優子（山口大第一内科）
春野政虎（福岡大大学院生化学第一）
平田昭二（福岡大耳鼻咽喉科）
平塚浩樹（福岡大内科第二）
平塚昌文（産業医大第二外科）
廣田　修（福岡大小児科）
藤井寛子（産業医大第二内科）
古川敬一（福岡大筑紫内科）
堀　浩一郎（福岡大麻酔科）
前田浩和（福岡大内科第二）
前原　潔（福岡大麻酔科）
松尾文恵（福岡大外科第一）
松木　豊（愛媛大第三内科）
松島弘明（国立長崎中央病院）
松本　進（福岡大精神神経科）
真山　嵩（福岡大麻酔科）
三上公治（福岡大外科第二）
南野　淳（長崎大第二内科）
三根生和明（愛媛大第二内科）
宮尾洋志（大阪市医大泌尿器科）
宮城千里（福岡大耳鼻咽喉科）
宮原佳江（福岡大内科第二）
三好多佳子（帝京大眼科）
村上正彰（福岡大外科第一）
室原由理（福岡大整形外科）
森　真由美（福岡大麻酔科）
屋宜宣守（琉球大内科）
矢野浩二（福岡大整形外科）
山内　正（福岡大精神神経科）
山内紀子（福岡大内科第二）
山口満喜子（京都府医大第一内科）
山下太郎（福岡大整形外科）
山田勝博（福岡大外科第一）
山中秀紀（久留米大産婦人科）
山道正代（福岡大内科第一）
山道光雲（福岡大眼科）
山本浩一（福岡大精神神経科）
山本　竜（広島大整形外科）
吉武圭輔（福岡大内科第二）
李　健勲（福岡大精神神経科）
和田秀一（広島大第一外科）



第13回生　福岡大学医学部卒業記念　平成２年３月26日

【会議報告】

平成2年5月29日（火）19時　役員会
場所　医学部1階B会議室
議題　1．第9回総会について
　　2．役員改選について
　　3．平成2年度の方針について

平成2年6月19日（火）19時　役員会
場所　医学部3階A会議室
議題　1．M4衛生公衆衛生学フィールド実習における卒後研修に関する調査について
　　2．第9回総会について
　　3．次期会長の推薦
　　4．役員の改選について
　　5．平成2年度の活動方針

平成2年7月20日（火）19時　役員会
場所　福岡市天神　海王
議題　1．新旧役員の引継
　　2．第9回総会の反省
　　3．同窓会今後の展望

平成2年9月11日（火）19時　役員会
場所　医学部3階A会議室
議題　1．今後の同窓会活動の具体策について
　　2．理事の業務分担について

平成2年10月9日（火）19時　理事会
場所　医学部別館2階ゼミ室
議題　1．第10回文化発表週間の援助について
　　2．同窓会の将来構想について

平成2年11月6日（火）19時　理事会
場所　雅加栄
議題　1．体育学部清永教授（1回生）教授就任記念行事について
　　2．在学生の取扱いについて
　　3．会費について
　　4．会員、会則について

【お知らせ】

最終講義

平成3年3月をもって定年を迎えられる志村秀彦教授（外科学第一）、高岸直人教授（整形外科学）の最終講義が下記の通り行われます。

志村教授最終講義
とき　平成3年2月2日（土）
　　1限目（8：50〜10:30）
ところ　臨床大講堂

高岸教授最終講義
とき　平成3年1月23日（水）
　　3限目（13:20〜15:00）
ところ　講義棟、中2講堂

平成3年度同窓会総会予告

日時　平成3年7月6日（土）午後6時
場所　福岡国際ホール
　　福岡市中央区天神
＊詳しくは来年5月頃ご案内致します。

訃報

田川隆輔教授（解剖学第一）
平成2年10月29日　急逝されました。10月30日福岡斎場で密葬、11月8日同じく福岡斎場で教室葬が行われました。
ご遺族　〒814 福岡市早良区原7－21－11
　　TEL092-861-2040
　　ご令室　田川　壽賀子　様

新刊紹介

“X線の影と光と”エッセイ集
小野　庸著（本学放射線医学教授）
　　定価1,800円
ご用の方は放射線医学教室までご連絡下さい。なお小野教授には、さきに随想集「放射線の窓から」もあります。

【事務局からのご連絡】

１．事務局にファックスを設置しました。

住所や勤務先の変更、いろいろなご連絡、原稿の送付などにご利用下さい。番号は電話と兼用《092-865-6353》です。

２．住所変更の連絡をお願いします。

住所や勤務先の変更がありましたら差込みの葉書またはファックスでぜひお知らせ下さい。名簿の整備と郵便物の返送を無くすためにご協力下さい。

３．会報原稿をどしどし送って下さい。

会報の内容を多彩なものにしたいと思っています。ご自分や同窓生に関する新聞や雑誌記事、開業案内、研究報告、近況報告、留学記事、趣味に関するものなど何でも結構です。会報を会員交流の場にして下さい。

４．生命保険にご加入下さい。

同窓会は三井生命保険の代理店をやっています。その手数料収入は同窓会の貴重な資金となっています。どうぞご自分のためと同窓会のため差込みの葉書でご返事下さい。

【編　集　後　記】

昭和59年７月に創刊号が発行されて以来、前号まで総責任者として活躍された辻祐治先生（２回生、泌尿器科）、小金丸史隆先生（３回生、放射線科）の後を引継ぎ、本９号より新スタッフで編集を担当させて戴くこととなった。五里霧中、頑張って行きたい。

さて、毎年100名以上の入会がある同窓会は、年々その規模が拡大している。これに伴い当会報に託される使命も年々増大かつ多様化してきていると考えられ、それだけに会報に寄せられる期待も大きくなってきている。特に大学を離れ活躍中の多くの会員の方々との情報交換が、最大の課題であろうと考えられる。今回、こうした見地から会報の内容を増量するとともに、内容そのものも多様化させるように努力してみた。恒例の同窓会報告（会計報告、役員人事）、国試報告などに加え、同窓会２次会（学年会）報告を掲載し、より身近な情報提供をしてみた。また学外で研修をされた先生方の豊富な経験や目新しい情報の欄を新設したり、懐かしい西医体の情報を学生欄として掲載してみた。今後、各地区の支部情報、各クラブ（愛好会）ＯＢ会の近況報告、学術情報、大学内の事業情報、現役学生の活動状況（西医体、文化発表週間）、あるいは会員個々の近況報告（開業医、勤務医としての現況）や趣味、娯楽の情報なども掲載し、質量ともにユニークで会員各位のニーズに応える同窓会会報を作っていきたいと考える。そのためにも電話、郵送あるいはＦＡＸ等による会員各位からの公私に亘る新鮮な情報提供を期待するものである。全ての会員にオープンな身近な情報機関誌として愛される同窓会会報を目指して、担当者一同、さらに努力を重ねたいと考える。

編集委員

田　中　伸之介（５回生）
伊　東　博　巳（７回生）
武　末　佳　子（11回生）

福岡大学医学部同窓会会報第9号

発行日　平成2年11月30日
発行人　山崎　節
編集人　田中　伸之介
発行所　〒814-01
福岡市城南区七隈7-45-1
福岡大学医学部同窓会
電話（FAX）092-865-6353（直通）
092-801-1011（代表）
内線 2798